



も と は し つ う し ん

本橋通信

第68号
2026年4月

本橋Fαオフィス 電話:090-7909-2111/メール:rmotohashi0419@gmail.com

★★★この本橋通信は、私とご縁のあった方に差し上げている個人通信です★★★

モヤモヤの今こそ、少しでも〇〇の肌感を…

皆さまこんにちは。本橋通信第68号をお届けいたします。今月もどうぞ最後までお付き合いください。連日気の休まらない嫌なニュースが目に入る中で、中東情勢の緊迫化で原油高はどうなるのか？先が見えない物価高から消費意欲も萎えてきたり、そもそも…リスクを取る投資なんてこのまま続けていて良いのだろうか…等々、流石に鈍感FAの私も少しは気を揉みながらも、正直「お手上げ(ワカリマセン)」です。

このお題、精鋭頭脳部隊である主要な中央銀行のトップにさえ「様子見しか…」と、歯切れの悪いコメントを言わしめるほどの難易度です。世界の中央銀行の使命は、『物価や金融システムの安定、雇用の最大化』であり、政策金利を上げ下げする金融政策を通じて、景気や物価の過熱・冷え込みに目配りしていきます。

不透明感が充満する今だからこそ、金利と株価のメカニズムを簡単に考えてみます。金利は株価の重しとされます。金利上昇＝株価下落。何故でしょうか？①企業の借入負担が重くなる。金利が上がると借金の金利支払いが増えてきます。これが企業活動の重しとなり利益が減少して株価の下押しへ。②投資家の比較・気分の問題です。基本的に投資マネーは臆病です。安全な国債金利が4%あるなら、株式のリスクを取らずとも安全資産の国債でイヤ…という株式と国債を分ける選好比較境界の金利水準が存在します。③株価は将来得られるキャッシュフローの現在価値です。将来価値を現在に直す「割引率」の基準が金利であり、金利上昇＝割引率の上昇⇒割り引かれた現在の株価は小さくなるため、株価は下落の要因へ…



また金利には他にいろいろな情報もあります。景気回復・拡大する時に経済の体温が上がる良い金利上昇、インフレ懸念で景気悪化に陥りそうな中での悪い金利上昇(コレが今心配されています…)。こんな今だからこそ、経済の「体温計」である金利の肌感を少しだけでも…。

MFAO(Motohashi Financial Advisors Office)の本棚より

今月は私から、『たった一言で 頭がいい人だと思われる コンサルタントの言語化力』です。著者は独立系コンサルタントの和仁達也氏。本書は私のような「コンサルタント」の実務面において少々テクニク的アプローチも多い内容ですが、要所要所ではコレ重要かもという部分もあり、この点にフォーカスしてご紹介します。第1章:話を整理して課題の核心を捉える。話を聞く、話を整理する、相手の思考を言語化する⇒聞くのと理解するのは別！コンサルタントは相手を映し出す鏡であって、相手が自分の人生の主人公である感覚を取り戻すことが出来る状態が理想…所謂信頼たる壁打ち相手となれるか否かが重要だと。第2章:あえて自分を「透明化」すべし。いつもフラットな関係で、フラットな自分で…この前提条件＝相手をコントロールしようとしません。先入観なく聴き、相手のドラマを最後まで見る意識で対峙する。決めつけない・誘導しない…を再度徹底。三章:相手の課題(お困りごと)の核心を言語化する。自分を無にして話を聴くとは言えある程度の型(お金、人間関係、生きがい・やりがい)に仮説は持っておくべし。第四章はテクニク論ですが、言葉の定義を揃えておく。第五章:この場はどのような場なのか…否定語を使わず安心して言語化してもらおう。テクニク論は別としてテキスト(言語)派なのか？コンテキスト(行間)派なのか？私は俄然、後者派ですね…



✍️ IFA (Independent Financial Advisor) 本橋の視点より ✍️

共同通信社さま経由にて、各地方新聞紙面「ライフセミナー」欄に掲載コラムより。オリンピック・パラリンピック開催の年だからこそ、何となく気になってくるアノ資産、今年もFAとして再び注目してしまいました…

Q. 五輪が開催された今年、特に注目すべき資産はありますか？

A. 2月にミラノ/コルティナ冬季五輪が開催されました。アスリートの皆さんが目指すのは世界一の証である「金メダル」です。しかしアスリート以外でも、金(ゴールド)に熱い視線と資金を振り向けている多くのプレイヤーが世界中に存在しています。本コラムでは2024年のパリ五輪の際にも、輝きを増す資産としてゴールドの動向に言及しました。その年の夏頃の金価格は1トロイオンス(約31.1g)あたり約2,500ドル台での推移でしたが、26年2月時点では、ほぼ2倍の約5,000ドル付近へと到達しています。今なお宝飾品や電子機器の部材、主要通貨からの逃避先資産として、多くの市場参加者による現代版ゴールドラッシュとも言える状況は継続中の印象です。その主な要因は「不確実性の高まり」です。国際的な紛争が頻発し収拾は困難、米国トランプ政権の朝礼暮改な政策も相まって、従来から盤石であった基軸通貨米ドルの信認がついに揺らぐかもしれない…という懸念により、世界の中央銀行も外貨準備の一部を米ドルから金へと分散させる動きが進みます。

安全資産とも言われる金ですが、最近の価格変動は安定的とは言えません。2000年代に金関連の金融商品が登場して以来、多様な投資家の短期・長期的な投資マネーも金価格の変動を大きくしています。



金への投資は、需給や価格動向を追うだけでなく、自分にとって真に価値ある投資対象なのか否かの判断が大切です。(独立系ファイナンシャルアドバイザー本橋竜一)

★★

今や無国籍通貨や現物資産としてズッシリとした存在感を確立しつつあるような気がします。

◆ 編集後記 ◆

※懐かしのスモールセミナー・プロジェクト再始動…

ようやく春ですね～。陽気が暖くなるのに合わせ、私の事務所の提供メニューを再度見直してみますと…、最近すっかりサボっていたスモールセミナーの資料を発見しました。独立時の8年前、毎週末一人で開催していた懐かしのコンテンツ… 当時は「お客さまの資産活用の課題をプランニングするには？」と、ゼロからアレコレ考えて展開していたモノですが、今風に少しアレンジし直してもう一度提供してみようかと企画しています。名付けて『新・人生ゴールから逆算する資産準備術』PJ。私も自分ゴトとして皆さんと一緒に考えていきます!

◆今後本通信をご希望されない方は、お手数ですがお知らせ下さいますようお願い致します◆

【発行者プロフィール】

本橋 竜一(もとはし りゅういち)、1974年4月19日生まれ。東京郊外八王子の高尾在住。早稲田大学卒業後、横浜銀行で金融マンとして社会人をスタートしました。その後、国内(あおぞら銀行、みずほFG、三菱UFG)、外資系(スイスUBS)金融機関にて、約15年間に渡ってプライベートバンキング(ご資産家のお客さま専用金融サービス)を経験し、ファイナンシャルアドバイザーとして独立開業。家族は妻、娘、息子の4人。



趣味はエンジョイゴルフ(スコア3桁でも緑の芝で気分爽快!)と読書(ジャンル無差別:乱読・積読?)

お客さまに対する想い:人生に専属のファイナンシャルアドバイザーがいる安心感を提供したい…

本橋FαオフィスWEBサイトは と検索! <https://www.pfa-withyourlife.jp/>

皆さまからのご感想・ご要望をどんどんお寄せください。

➡ 本橋携帯:090-7909-2111 メール:information@pfa-withyourlife.jp